

令和6年度 保護者・生徒・教職員の評価 (R7.2.1付)

		評価項目		保護者	生徒	教職員	平均
主体的に活動する生徒の育成	授業	1	【授業】 学校は、個人で考えたり、グループで協力したりする活動を取り入れた授業を行っていると思いますか。	3.19	3.81	3.45	3.49
	行事	2	【行事】 学校は、生徒が積極的に活動できる行事、機会を設定していると思いますか。	3.44	3.70	3.64	3.59
	生徒会	3	【生徒会】 あなたは、積極的に行事や生徒会活動に取り組んでいますか。		3.52	3.27	3.40
豊かな心の育成	教育相談	4	【教育相談】 学校は、あなたたちの相談事や悩み事などについて、じっくり聞く機会をもつようになっていると思いますか。	3.13	3.56	3.73	3.47
	キャリア教育	5	【キャリア教育】 学校は、将来の見通しをもたせるためのキャリア教育(職業人の話、将来についての話等)に取り組んでいると思いますか。	3.31	3.48	3.55	3.45
	読書活動推進	6	【読書活動推進】 あなたは、今の学年になって、昨年度と同じか、それ以上に本を読んでいますか。	2.63	2.33	3.55	2.83
たくましい体の育成	心の教育	7	【心の教育】 あなたは、相手を思いやる言動やSNSのトラブル防止などを意識して行動できていますか。	3.31	3.81	3.55	3.56
	危機管理	8	【危機管理】 学校は、地域の状況を理解し、危機管理に関する学習や命を守る活動に取り組んでいると思いますか。	3.25	3.44	3.64	3.44
	地域連携ボランティア	9	【地域連携ボランティア】 あなたは、学校主体の活動を含め、積極的に地域の活動やボランティア活動に参加していますか。	3.31	3.19	3.73	3.41
ふるさと教育の推進	あいさつ社会的ルール	10	【あいさつ社会的ルール】 あなたは、自分から積極的に挨拶したり、交通安全に努めたりすることができますか。	3.50	3.74	3.36	3.53
	家庭学習習慣	11	【家庭学習習慣】 あなたは、宿題以外で、学習(塾等の学習も含む)をきちんと行っていますか。	2.88	3.33	2.64	2.95
	情報発信	12	【情報発信】 学校は、学校の様子を家庭や地域等に発信し、家庭・地域と協力しながら教育活動の充実に努めていると思いますか。	3.25	3.56	3.64	3.48
	生活習慣	13	【生活習慣】 あなたは、早寝・早起き、朝食習慣、メディア利用時間などの時間管理を意識して生活することができますか。	2.69	3.30		2.99

I 主体的に活動する生徒の育成

【意見・提案等】

・国際協力などの活動、例えばもっと今の世界の現状について知る活動を設けたり実際にリモートで交流したりするなど。（生徒）

授業	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は、タブレットを活用した授業を通して、個別最適な学習や協働的な学びの両立が図られている。 ●保護者については、参観日以外に学校へ来る機会が少なく、生徒の状況を十分把握できていないと考えられる。そのため、ICT機器を活用した情報発信について考える必要がある。 ●教職員については、生徒の学びを深めるICT機器活用の授業を展開しているが、授業の特性上毎時間使用するには至っていない時間もあるため、ICT機器活用における職員研修をさらに充実させ、活用方法の工夫を図っていく必要がある。
行事	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は、行事に積極的に参加して、充実感を得ていると考えられる。 ○教職員は、行事において、生徒が主体的に活動できるように工夫していると考えられる。 ●保護者については、生徒の活動の様子を見る機会が、スポーツフェスタと学習発表会に限られているからではないかと考えられる。そのため、情報発信の方法を工夫していく必要がある。
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は、生徒数の減少に伴い行事や生徒会活動の在り方を検討し、負担のないようにしていると考えられる。 ○●生徒数が少ないため、活動する場面が多く、充実感を得ている生徒がいる反面、負担に感じている生徒もいると考えられる。そのため、専門委員会の活動内容等の見直しを図っていく必要がある。
意見等	<p>I ICTの効果はあるのか。</p> <p>A1 キュビナなどを使って学習するが、キュビナを使用したから効果があったとは特定はできない。しかし、学力診断テスト等では、成績が向上しつつある。なお、全国学習状況調査などはタブレットを使用している。また、学習発表会等でのプレゼン資料などはすべて生徒が作ったものであるため、技能等の向上は図られている。</p> <p>Q2 保護者の見る機会が少ないとあるが。</p> <p>A2 家庭環境も多様化しており、なかなか、授業参観等に学校へ来る機会が少ないと考えられるため、情報発信を行っていきたい。</p>

学校運営協議会の評価

④・3・2・1

II 夢の実現に向けた指導・支援の充実

【意見・提案等】

特になし

教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒及び教職員は、定期的に教育相談（希望者相談等含む）を実施し、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）の活用を図っており、生徒と向き合う機会の確保につながっていると考えられる。 ●教育相談の内容については、秘匿性があるため、保護者が教育相談の実施について知る機会が少ないと考えられる。そのため、教育相談前に実施するアンケート用紙の内容や教育相談を希望する生徒の有無について、情報を発信していく必要がある。
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は、職業人の話を聞く場などを設定し、その効果を実感していると考えられる。 ●生徒は、キャリア教育の取組について、理解しているものの将来の夢や進路については、漠然としている生徒も少なくない。そのため、1年次からの進路指導を充実していく必要がある。 ●保護者については、キャリア教育の取組内容を把握できていないと考えられる。そこで、キャリア教育の取組における講演等を行う場合は、保護者へ案内し、話などを聞いていただく機会を増やす必要がある。
読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は、図書館サポーターなどと連携し、読書活動を推進していると考えている。 ●生徒や保護者については、読書に関して、昨年度の情報との比較ができにくかったのではないかと考えられる。そのため、読書量について、視覚的に把握できるようにしていく必要がある。
意見等	<p>Q3 読書については、誰がどんな本を読んだのかが分かる仕組みが構築できないか。</p> <p>A3 ひなた電子図書（県立図書館）の利用が可能となるとともに、校内の図書システムには記録されているため、個票を作成して引き継げるようにしたい。</p>

学校運営協議会の評価

4・③・2・1

III 地域の良さを生かした心の教育の推進

【意見・提案等】

特になし

心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は、相手を思いやる言動を意識して行動していると考えられる。 ○教職員は、望ましい人間関係の醸成を図り、心の教育の充実を感じていると考えられる。 ●保護者については、「思いやりの心の育成、啓発に努めて」という表記の理解が難しかったのではないかと考える。そのため、表記を「思いやりの心の育成に努めて」としていく必要がある。その上で、いじめアンケートを行う際に、思いやりの心について、生徒の変容を答えられるようにしていく必要がある。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は、命の教育週間等を設け、授業や講演等の場を設定し、充実を図っていると考えられる。 ●生徒や保護者においては、「危機管理に関する学習」の表記を難しく捉えたのではないかと考える。そのため、「命を守る学習」など表記を分かりやすいものにする必要がある。その上で、命を守る学習の様子等をホームページや学級通信等を通して情報発信していく必要がある。
地域連携ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は、本年度、鉢踊りや有水まつり等に参加を呼びかけ少しずつではあるが参加しようとする生徒が増え始めているととらえていると考えられる。 ●生徒や保護者においては、鉢踊りや有水まつりなどに参加する生徒が固定しているため、参加協力が不足していると捉えていると考えられる。そのため、地域の保存会や実行委員との連携を深めていく必要がある。
意見等	<p style="color: red;">・昨年度に比べ、有水まつりや高城まつり等に参加する生徒が多くなったようである。この調子で、自立を目指してほしい。</p>

学校運営協議会の評価

4・③・2・1

IV 生徒を支える基盤づくり

【意見・提案等】

特になし

あいさつ社会的ルール	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は、あいさつや社会的ルールを守って生活していると考えられる。 ○教職員及び保護者も、概ねあいさつや社会的ルールを守って生活していると捉えていると考えれる。 ●「スリッパをならべる」「笑顔で挨拶する」など心遣いの面で、他者意識をもたせ公共心をさらに向上させる必要がある。
家庭学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒については、タブレットを使った学習が増えたことで概ね家庭学習を行っていると捉えていると考えられる。 ●保護者及び教職員において、家庭学習が不十分で家庭学習における学習習慣が定着していないと感じている。そのため、小学校と連携し、9か年で学習習慣が定着できるように工夫するとともに、家庭の教育力の向上に努めていく必要がある。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、生徒、教職員のほとんどが、学校から情報が発信されていると捉えている。 ●生徒と保護者の一部において、家庭の在り方が多様化しているため、学校だよりやSigfyメール、学校ホームページ等を見る時間ががないのではないかと考えられる。そのため、情報発信の新たな手法を考える必要がある。
生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットを使用する機会が増え、保護者及び生徒については、メディア利用時間に問題があると捉えていると考えられる。そのため、保護者へタブレットの学習アプリを周知していく必要がある。 ●家庭の在り方が多様化する中、学校の指導を広げ、家庭における教育力の向上を図っていく必要がある。
意見等	<p style="color: red;">・学習の大切さを、学校で周知していってほしい。その一環で、キャリア教育の充実をお願いしたい。</p> <p style="color: red;">・将来の夢や希望を早い段階から考えられるようにしてほしい。</p> <p style="color: red;">・家庭学習においては、家庭の協力や意識の差が大きいが、学校で生徒の様子を見ながら繰り返し、指導してほしい。</p>

学校運営協議会の評価

4・③・2・1